

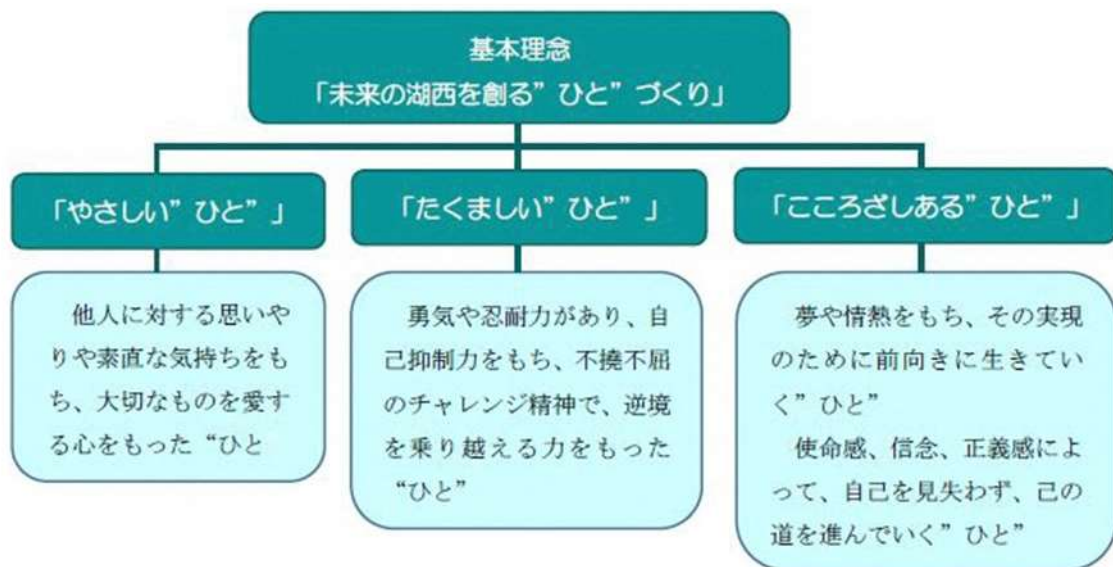
1 本市の望ましい教育環境について

(1) 本市のめざす人づくりについて

令和3年度から第2次湖西市教育振興基本計画（以下「教育振興基本計画」）がスタートしています。

教育大綱の中で、郷土の偉人豊田佐吉翁の「障子を開けてみよ。外は広いぞ。」のとおり、夢やころざしをもち、未来にはばたく「ひと」を育み、誰もが生涯にわたり学び、成長できる機会を絶やさぬよう、「今日」よりも「明日」、「明日」から「未来」へと、先を見据えて着実につなげていく想いを込め、「未来の湖西を創る“ひと”づくり」を基本理念として掲げています。「未来の湖西を創る“ひと”」とは「やさしく、たくましく、ころざしある“ひと”」と記しています。

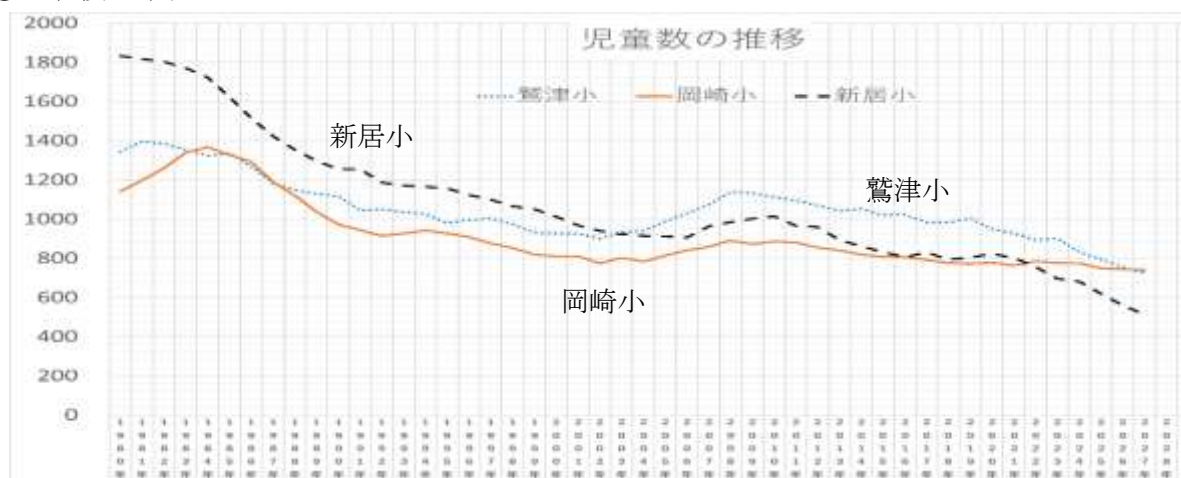
今後も、このような人づくりを進めることができる環境を整えていくことが大切であると考えます。



2 本市の教育の現状について

(1) 児童生徒数の推移

①大規模小学校



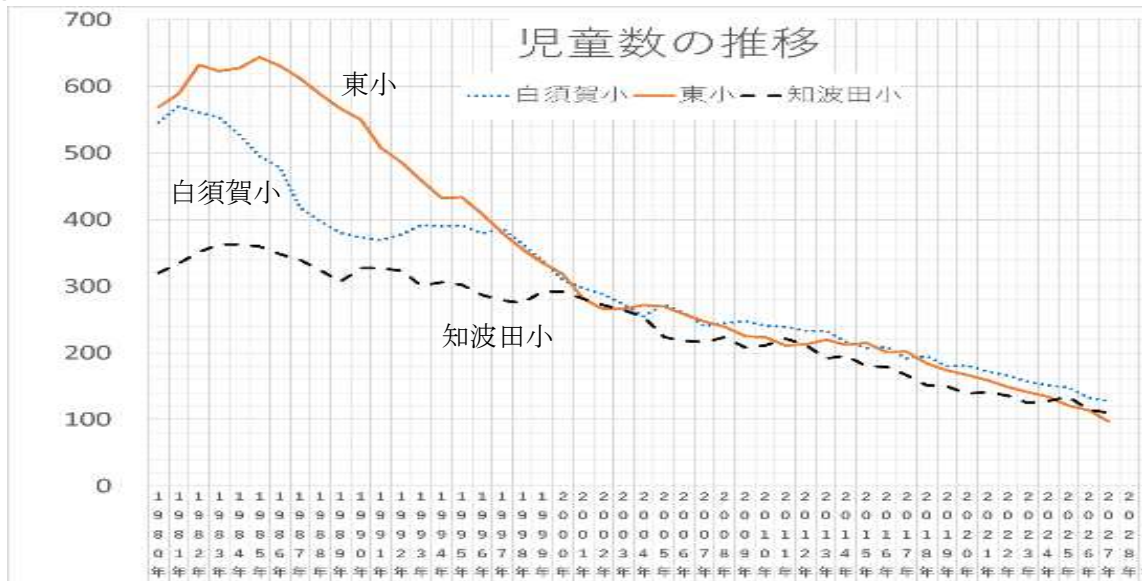
大規模小学校では、少子化が進むことにより、鷺津小、岡崎小で1学年4学級に、新居小で1学年3学級になっていくことが予想されています。将来的には、大規模校から標準規模校に近づいていきます。岡崎小、鷺津小では、近年、特別支援学級が毎年、増級しており、教室数が足りなくなることが懸念されています。

外国人児童が多いため、外国人児童への適応指導や支援を行うための人員配置が今

後も必要です。

大規模校は、これまでの教育活動を生かした学校運営を継続することが望ましいと考えます。

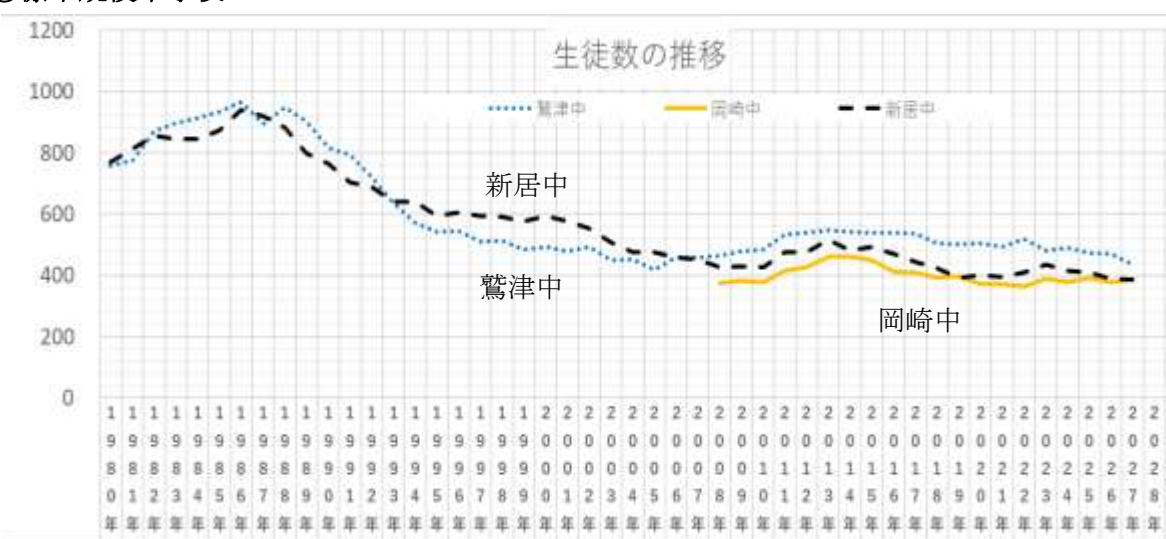
②小規模小学校



小規模小学校では、すべての学年で1学級となり、その児童数は、20人を下回ると予想されています。

子どもたちの活躍の場が多い、教職員間で情報共有、共通理解がしやすいなどのメリットを生かした学校運営が行われています。また、人間関係が固定化されやすいデメリットを改善するために縦割り活動を多くしたり、生徒指導面で共通した指導を行うことができるように、一人一人の児童について教職員全員が情報を把握したりしています。現在の状況においては、学校運営を工夫することで、子どもたちの健やかな成長を促すことができる教育環境が維持されていると考えます。しかし、将来的に、少子化に歯止めがかからずに、1学級の人数が20人を下回る状況に対して、子どもたちにとって望ましい教育環境について、改めて検討が必要であると考えました。

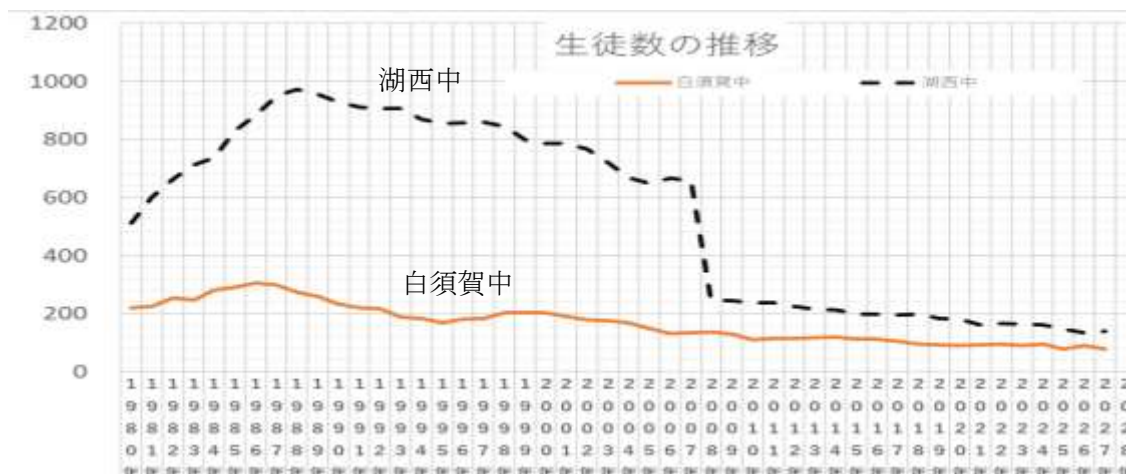
③標準規模中学校



標準規模中学校では、生徒数は減少していきますが、1学年4学級は、維持されると予想されています。

標準規模中学校では、これまでの教育活動を生かした学校運営を継続することが望ましいと考えます。

④小規模中学校



小規模中学校では、白須賀中は1学級、湖西中は2学級で推移していくと予想されています。

小規模小学校と同様、メリットを生かし、デメリットを軽減するように工夫した学校運営が行われており、現在の状況は、子どもたちの健やかな成長を促すことができる教育環境が維持されていると考えます。しかし、中学校でも、少子化に歯止めがかからず、いずれは、1学級の人数が20人を下回ることも予想されます。そのような状況に対して、子どもたちにとって望ましい教育環境について、改めて検討が必要であると考えました。

3 望ましい教育環境について

(1) 単学級における児童生徒数

小規模の小中学校については、今後の推計を考慮して、望ましい環境について、検討する必要があると判断しました。

① 小規模小学校（白須賀小、東小、知波田小）について

【単学級の場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数】

小学校では、20人以上は必要である。

② 小規模中学校（白須賀中、湖西中）について

【単学級の場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数】

中学校では、30人以上は必要である。

(2) 学級数

小規模校では、現在の状況は、子どもたちの健やかな成長を促すことができる教育環境が維持されていると考えています。しかし、今後も、少子化が進むため、現在の教育活動を維持し、教育効果を上げていくことが難しくなっていきます。すべての学級が単学級の小規模校においては、近い将来、小学校で20人以上、中学校で30人以上を維持することが難しくなっていきます。そこで、1学年でどれくらいの学級数が、子どもたちにとって望ましい教育環境として必要であるのかについて検討しました。

【望ましい教育環境としての学級数】

小中学校で、1学年2学級以上、できれば3学級が必要である。

4 望ましい教育環境に近づけるための手法について

本市における効果的な手法

通学区域の変更や学校の自由選択制は本市には、なじまず、統廃合や小中一貫による適正配置が効果的である。

【主な理由】

通学区域が旧の町村に基づいて設置されている。したがって通学区域を大きくしたり、小さくしたりすると行政区と通学区域の不一致が生じるため、保護者や地域の理解は、得られないと考える。

5 本市の望ましい適正配置について

本市の状況から、少子化の進行により、小規模校の小学校、中学校は、さらに少なくなるため、単学級で小学校1学級20人以上、中学校で1学級30人以上を維持することは難しく、統廃合や小中一貫による適正配置の検討が必要です。そこで、小規模校である白須

賀小学校、東小学校、知波田小学校、白須賀中学校、湖西中学校において、どのような配置が望ましいのかについて検討しました。

(1) 東小、知波田小、湖西中における適正配置について

平成 27 年度の児童・生徒数

H27	東小	知波田小	湖西中
1年	33	18	63
2年	33	35	68
3年	39	19	67
4年	42	33	
5年	27	40	
6年	41	35	
全体	215	180	198

令和 3 年度の児童・生徒数

R3	東小	知波田小	湖西中
1年	30	19	48
2年	19	26	60
3年	29	17	54
4年	25	19	
5年	29	28	
6年	27	32	
全体	159	141	162

令和 9 年度の児童・生徒数 (推計)

R9	東小	知波田小	湖西中
1年	13	14	49
2年	12	7	45
3年	16	23	46
4年	18	22	
5年	21	17	
6年	17	27	
全体	97	110	140

東小、知波田小、湖西中学校が統合し小中一体型の学校になることが望ましい。

東小学校と知波田小学校が、統合することで、児童数が減少しても、1学年 20 人以上は、確保することができます。小学校では、単学級の場合は、1学級 20 人以上は必要であると考えており、統合することで、子どもたちの人間関係の幅が広がります。また、国の進める 35 人学級編制により、2学級になり、クラス替えを行うことが可能になります。ただし、少子化の進行によって、いずれは単学級になってしまう可能性が高いですが、その場合でも、1学年 20 人以上は確保することができる見込みです。

(2) 白須賀小・白須賀中における適正配置について

平成 27 年度の児童・生徒数

H27	白須賀小	白須賀中
1年	33	35
2年	36	42
3年	35	36
4年	29	
5年	38	
6年	36	
全体	207	113

令和 3 年度の児童・生徒数

R3	白須賀小	白須賀中
1年	23	29
2年	35	31
3年	20	32
4年	34	
5年	24	
6年	36	
全体	172	92

令和 9 年度の児童・生徒数 (推計)

R9	白須賀小	白須賀中
1年	18	23
2年	20	35
3年	17	20
4年	28	
5年	15	
6年	30	
全体	128	78

白須賀地区の地域の方と、適正配置について議論を進めていくことが望ましい。

例えば、付加価値をもたせた小中一体型の学校や通学距離を考慮した中学校のみの適正配置など。

白須賀中学区は、大規模校や標準規模校がある鷺津中学区、岡崎中学区、新居中学区に囲まれており、小規模校同士の統合という方法は取りにくい状況にあります。また、小中一体型の学校を考えても、学年ごとの児童生徒数が増えるわけではないため、単学級の解消にはつながりません。中学校では高校へのつながりも考え、より多くの人とかかわることが望まれますが、小学校と変わらない状況で学年だけが上がることとなります。以上のことから、適正配置案を示すことが難しいため、地域の方々と話し合っていく必要があると考えます。

(3) 適正配置に向けての配慮事項

- ①保護者、地域への説明と意見収集を丁寧に行う必要がある。
- ②湖西市に住む子どもたちが育つ環境を整えることを最優先することが大切である。
- ③社会情勢の変化に応じて柔軟な解決策を協議することが大切である。
- ④適正配置までの期間における現在の児童生徒への配慮も必要である。